

環境創造局が所管する外郭団体の協約マネジメントサイクルに基づく 評価結果等について

本市では、各外郭団体が一定期間における主要な経営目標を本市との「協約」として掲げ、経営の向上を促進する「協約マネジメントサイクル」の取組を進めています。

各団体において取組を進めている「協約」については、目標に対する進捗状況の確認及び経営を取り巻く環境の変化への対応について毎年度評価を実施するとともに、横浜市外郭団体等経営向上委員会（以下「委員会」といいます。）を活用し、マネジメントサイクルの効果の向上及び団体経営の健全化を図っています。

このたび、当局所管の外郭団体である「公益財団法人 横浜市緑の協会」に関し、令和3年度の取組実績を踏まえ、協約の進捗状況の確認及び振り返りを実施しましたので御報告します。

1 評価結果等（公益財団法人 横浜市緑の協会）

(1) 協約の取組状況

ア 令和3年度に定めた団体経営の方向性等

(ア) 協約の期間

令和3年度～令和5年度

(イ) 団体経営の方向性

「引き続き経営の向上に取り組む団体」

イ 主要目標の取組状況等（抜粋）

(ア) 公益的使命の達成に向けた取組（SDGs 達成に向けた取組）

協約期間の 主要目標	①SDGsの視点による事業の取組推進及びY-SDGs(横浜市SDGs認証制度)の認証取得 ②低圧電力等における再エネ100%電力の導入 令和3年度50%、令和4年度60%、令和5年度70%		
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の策定及びY-SDGs認証取得（上位=Superior（スーパー）認証） また、そのことにより協会の対外的なプレゼンスが向上したほか、認証団体向けのサービスである研修を実施することで、職員全体の意識向上に繋がった。 ②低圧電力等全79契約の内「従量電灯」36契約を再エネ100%電力に切替えることにより、電気使用量972,491kWhの53%にあたる512,001kWhを再エネ100%電力に切り替えることができた。		
実績	前年度 (令和2年度)	令和3年度	当該年度の進捗状況等
	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の素案作成 ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合18%	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の策定、Y-SDGsの認証取得（上位=Superior（スーパー）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合53%	順調

今後の課題及び対応	<p>①職員が SDGs の視点をもって事業に取り組むことが必要であるため、SDGs の理念や国内外情勢及び当協会の取組を理解し、各職員の役割を認識するため研修等を実施する。また、Y-SDGs の認証「最上位=Supreme (スプリーム)」の取得を目指す。</p> <p>②低圧電力等における再エネ 100%電力の使用割合向上のため、電気事業者等の特定・情報収集・契約切替え等を実施する。</p>
-----------	---

(イ) 公益的使命の達成に向けた取組 (緑化推進事業)

協約期間の主要目標	<p>①ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、緑化への関心が高まるとともに、文化・観光の振興、賑わいづくりなどにも寄与している。 里山ガーデンフェスタ入場者数 毎年 24 万人</p> <p>②国際園芸博覧会に向けた新たな人材育成および活用スキームの構築。 よこはま花と緑の推進リーダー (以下、「推進リーダー」という。) の中から、花や緑の専門知識を習得したガーデンネックレス横浜ガイドボランティアを育成し、里山ガーデンフェスタ会場で活用。 ガイドボランティア育成 毎年 10 名以上</p> <p>③国際園芸博覧会の機運醸成を目的とした市民協働花壇の設置・育成。 協会が管理する指定管理公園への市民協働花壇の設置・育成 累計 3 か所以上</p>		
目標達成に向けて取り組んだ内容及び成果	<p>①里山ガーデンフェスタ (春) の来場者は過去最多となり、緑化への関心を高めることができた。里山ガーデンフェスタ (秋) は中止 (新型コロナウイルス感染症 (以下、「コロナ」という。) 拡大防止のため。) となったが、代替として実施したオンラインでの情報発信は、YouTube で 11 本の動画を発信し、延べ 81,640 回の閲覧があった (R4. 3. 31 時点)。</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を修了した 8 名が春の里山ガーデンフェスタで活動を開始した。</p> <p>③市民協働花壇を金沢自然公園、俣野公園、三ツ沢公園に設置、管理を開始した。また、そのことにより、よこはま緑の推進団体、推進リーダー及び市民ボランティアの皆様により、国際園芸博覧会を盛り上げる機運が醸成された。</p>		
実績	前年度 (令和 2 年度)	令和 3 年度	当該年度の進捗状況等
	<p>①ガーデンネックレス横浜 (通年)、里山ガーデンフェスタ (秋 1 回、来場者 93,700 人) ※里山ガーデンフェスタ (春) は中止</p> <p>②③ (新規取組のため、省略)</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜 (通年)、里山ガーデンフェスタ (春 1 回、来場者 171,128 人) ※里山ガーデンフェスタ (秋) は中止</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア 8 名</p> <p>③協会の指定管理公園で市民協働花壇を 3 か所設置・管理</p>	<p style="text-align: center;">やや遅れ</p> <p>(①コロナの影響により秋の里山ガーデンフェスタを中止としたため、来場者数目標 (24 万人/年) に至らなかったが、実施した春のイベントは過去最多の来場者数となり盛況であった。</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティアは、推進リーダーから候補者 10 名を選抜したが、コロナの影響で 2 名が育成講座を欠席したため年間目標 (10 名) に至らなかった。</p> <p>③市民協働花壇は、累計 3 か所以上設置・管理の目標を初年度で達成した。)</p>

今後の課題及び対応	<p>①コロナの影響により、イベントが中止された場合も考慮し、ホームページや SNS を利用したリアルタイムな情報発信の充実に努める。</p> <p>②コロナ対策にも配慮しながら、令和3年度の未受講者分を含め、可能な限り受講者枠を増やして講座を開催する。</p> <p>③市民協働花壇の継続的な維持管理には、技術支援等が必要であるため、研修会を実施し、市民活動をサポートする。</p>
-----------	--

(ウ) 公益的使命の達成に向けた取組（動物園事業）

協約期間の主要目標	<p>①種の保存（守り続ける） 世界と手を取り合って野生動物を計画的に守っていく役割。 多様な行動を引き出す飼育環境改善（5件/年）（各園）</p> <p>②環境教育（知り伝える） 動物や生息環境のことを多くの人々へ伝え、行動につなげる役割。 出張動物園スクール等（リモート含む）の実施回数（40回/年）（3園合計）</p> <p>③レクリエーション（出会い感じる） 動物に魅せられ、ともに生きることの大切さを感じられる公園としての役割。 季節ごとに特色あるイベントや企画展の実施（4件/年）（各園）</p> <p>④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割。 市民向け研究発表等の実施（15回/年）（3園合計）</p>
目標達成に向けて取り組んだ内容及び成果	<p>①科学的評価にも取り組む飼育動物の生活環境を豊かにするエンリッチメントの取組（オオツノヒツジの生態展示とその検証）が、NPO法人市民ZOOネットワークのエンリッチメント大賞奨励賞を受賞した。 希少動物の繁殖にも取り組み、マレーバク、ヘサキリクガメ、キリン等が繁殖した。 新たに環境省と連携してアマミトゲネズミの生息域外保全に貢献した。 ツシマヤマネコの人工授精成功について、（公社）日本動物園水族館協会の希少種繁殖国内最高賞である「古賀賞」受賞に内定した。</p> <p>②小学校へのお出張やオンラインでの各種教育プログラムを実施し、園内でのガイドやワークショップ等も実施した。特に、出張動物園スクールをオンライン対応したことで、より子どもたちへの機会提供ができた。</p> <p>③コロナ禍でも安全・安心に楽しめるように感染防止対策を徹底し、動物園の魅力伝えるイベントや企画展を実施した結果、利用者調査アンケートの「全体的な満足度」で3園平均 97.9%（とても満足、やや満足の合計）を得た。</p> <p>④大学等との共同研究を実施し、研究発表やホームページ等での周知や総合学術誌へ論文を投稿した。その結果、国内初の成功となったツシマヤマネコの人工授精の学術論文が、動物に関する総合学術誌「Animals」に掲載され、全世界へ成果を共有できた。また、日本経済新聞の専門家が選出する「保護や研究、応援したい動物園」ランキングにおいて、先駆的な取組を行っている動物園として、よこはま動物園が1位を獲得した。</p>

実績	前年度 (令和2年度)	令和3年度	当該年度の進捗状況等
	①(未集計のため省略) ②3園合計:40回 ③よこはま動物園:2件 野毛山動物園:3件 金沢動物園:2件 ④3園合計:12回	①よこはま動物園:5件 野毛山動物園:5件 金沢動物園:12件 ②3園合計:67回 ③各園4件 ④3園合計:28回	順調
今後の課題及び対応	新しい生活様式や各種ガイドラインを踏まえた動物園の管理運営に取り組んでいく必要があるため、感染防止対策を徹底しつつ、引き続き創意工夫によるサービス提供により動物園の利用促進に努める。		

(エ) 財務に関する取組

協約期間の 主要目標	①公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 公園・動物園事業における公益への還元(1,000万円/年) ②①を実施した上での資金収支計算書における収支均衡を維持(毎年)		
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	①協定で定められた額(※)以上の施設・設備及び備品の修繕等を行い、市の財政負担及び市民サービスの向上に寄与することができた。 ※横浜市との協定では、公園は50万円以上、動物園は100万円以上の修繕等を市が行うと取り決められている。 ②公園、動物園とも、コロナによる人数制限やイベント中止などの影響がある中、消毒資材の設置等の感染防止対策を徹底した運営を行った。これらの取組をホームページ等で周知することで、安全・安心な施設であることをPRし集客に努めた結果、多くの皆様にご来園いただくことができた。また、野毛山動物園でクラウドファンディングなど、新たな収入の確保に取り組んだ結果、収支均衡の維持について黒字となった。		
実績	前年度 (令和2年度)	令和3年度	当該年度の進捗状況等
	①9,980,795円 ②当期資金収支差額 ▲2,395,017円	①111,275,929円 ②当期資金収支差額 88,299,866円	順調
今後の課題 及び対応	ウィズコロナ、アフターコロナの更なる進展が予測される中、収支均衡を維持するために、より一層の収入増及び公園や動物園等におけるサービスレベルを維持した上での支出節減の取組を進める必要がある。		

(オ) 人事・組織に関する取組

協約期間の 主要目標	①人材育成ビジョンの改定 ②改定した人材育成ビジョンの考え方に基づく研修等の実施
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	令和4年度の改定に向け、近隣の類似団体に人材育成ビジョンの内容に関するヒアリングを行い、課題を共有した。 市の人材育成ビジョンの内容についても調査し、協会の持つ多様な職種・雇用形態に対応させた人材育成ビジョンの枠組みを整理した。また、協会として求める職員像を再構築した。

実績	前年度 (令和2年度)	令和3年度	当該年度の進捗状況等
	・CS・接遇研修など：年8回	①人材育成ビジョンの考え方の整理および骨子案作成 ②令和4年度以降実施予定	順調
今後の課題及び対応	改定した人材育成ビジョンを全員で共有し、業務に取り組めるような環境づくりが必要であるため、研修等により人材育成ビジョンへの理解を深め、継続的に業務に取り組んでいく。		

(2) 所管局・団体による振り返り

令和3年度は、概ね順調な進捗状況となっておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部、目標数値に届かなかった項目もあります。引き続き、目標達成に向けて、市と団体で連携し、経営向上に務めてまいります。

2 添付資料

令和4年度 総合評価シート（令和3年度実績）

【参考1】委員会について

設置根拠	横浜市外郭団体等経営向上委員会条例（平成26年9月25日施行）
設置目的	外郭団体等のより適正な経営の確保を図るとともに、外郭団体等に関して適切な関与を行うため
委員 (任期2年) ※50音順	碓井 敦子（碓井公認会計士事務所 公認会計士） 鴨志田 晃（法政大学 経営学部教授）【委員長】 寺本 明輝（(株)浜銀総合研究所 顧問・特任コンサルタント） 戸田 龍介（神奈川大学 経済学部 教授） 治田 友香（関内イノベーションイニシアティブ(株)代表取締役社長）
設置	平成26年10月21日
所掌事務	1 外郭団体等のより適正な経営を確保するための仕組み及び外郭団体等に対する市の関与の在り方に関すること 2 外郭団体等の経営に関する方針等及びその実施状況の評価に関すること 3 外郭団体等の設立、解散、合併等に関すること 4 その他外郭団体等に関し市長が必要と認める事項

【参考2】委員会での審議方法について

令和3年度までは全団体について審議を行っていましたが、令和4年度からは、より深い議論ができるよう、審議団体数を絞り、全ての団体が概ね3年毎に審議を受けるように変更しました。

なお、委員会審議がない年も、所管局・団体による進捗状況の自己評価を行うとともに、委員会への報告を実施しています。

環境創造局の所管する外郭団体については、今年度は「報告団体」です。

総合評価シート（令和3年度実績）

団体名	公益財団法人横浜市緑の協会
所管課	環境創造局総務課
協約期間	令和3年度～令和5年度
団体経営の方向性	引き続き経営の向上に取り組む団体

1 協約の取組状況等

(1) 公益的使命の達成に向けた取組

① SDGs 達成に向けた取組

ア 公益的使命①	緑化推進・公園・動物園及び経営の各事業を多様な主体と連携して取り組むことで、良好な都市環境の形成など身近な市民生活に関わるものから、生物多様性の保全など国際的な課題につながるものまで多岐にわたる当協会の役割を果たし、持続可能な社会の実現に貢献する。			
イ 公益的使命①の達成に向けた協約期間の主要目標	①SDGsの視点による事業の取組推進及びY-SDGs（横浜市SDGs認証制度）の認証取得 ②低圧電力等における再エネ100%電力の導入 令和3年度50%、令和4年度60%、令和5年度70%			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の策定及びY-SDGs認証申請 ②低圧電力等において全79契約の内「従量電灯」36契約を再エネ100%電力に切替えた。	エ 取組による成果	①Y-SDGsの認証取得に向け、関係各課とのヒアリング準備を進めたことで協会内でのSDGsの取組に対する理解が深まった。また、上位=Superior（スーパーリア）認証を受けたことで協会の対外的なプレゼンスが向上したほか、認証団体向けのサービスである研修を実施することで、職員全体の意識向上に繋がった。 ②低圧電力等の電気使用量972,491kWhの53%にあたる512,001kWhを再エネ100%電力に切り替えることができた。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の素案作成 ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合18%	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の策定、Y-SDGsの認証取得（上位=Superior（スーパーリア）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合53%	—	—
当該年度の進捗状況	順調（①令和3年4月1日に「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」を策定した。また、Y-SDGsの認証「上位=Superior（スーパーリア）」を取得した。②目標数値を達成することができた。）			
カ 今後の課題	①協会としてSDGsの達成に貢献するために、職員がSDGsの視点をもって事業に取り組むことが必要である。 ②令和4年度の目標数値を達成するためには電力供給契約メニューの「従量電灯」だけでなく、新たに「低圧電力」契約を再エネ100%電力に切り替える必要がある。	キ 課題への対応	①SDGsの取組を進めていくのに際し、SDGsの理念や国内外情勢及び当協会の取組を理解し、各職員の役割を認識するため研修等を実施する。また、Y-SDGsの認証「最上位=Supreme（スプリム）」の取得を目指す。 ②契約メニュー「低圧電力」で再エネ100%電力を供給している電気事業者は少ないため、令和4年度内に契約できる電気事業者の特定、情報収集、契約先決定、契約切替えを実施する。	

② 緑化推進事業

ア 公益的使命②	基金の運用益等を活用した緑化推進事業を実施し、市民の都市緑化への関心を高め、市民による緑化活動を支援するなど、市の都市緑化施策の一部を担うことにより都市の住環境や魅力の向上に貢献する。			
イ 公益的使命②の達成に向けた協約期間の主要目標	<p>①ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、緑化への関心が高まるとともに、文化・観光の振興、賑わいづくりなどにも寄与している。 里山ガーデンフェスタ入場者数 毎年 24 万人</p> <p>②国際園芸博覧会に向けた新たな人材育成および活用スキームの構築。よこはま花と緑の推進リーダー（以下、「推進リーダー」という。）の中から、花や緑の専門知識を習得したガーデンネックレス横浜ガイドボランティアを育成し、里山ガーデンフェスタ会場で活用。 ガイドボランティア育成 毎年 10 名以上</p> <p>③国際園芸博覧会の機運醸成を目的とした市民協働花壇の設置・育成。 協会が管理する指定管理公園への市民協働花壇の設置・育成 累計 3 か所以上</p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①-1 ガーデンネックレス横浜 2021（通年）、里山ガーデンフェスタ（春）を実施</p> <p>①-2 里山ガーデンフェスタ（秋）は中止（新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）拡大防止のため。）なお、市民の緑化意識の向上を図るため SNS 等で情報を発信した。</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を実施、春の里山ガーデンフェスタで活動開始</p> <p>③市民協働花壇を金沢自然公園、俣野公園、三ツ沢公園に設置、管理開始</p>	エ 取組による成果	<p>①-1 横浜市と連携しガーデンネックレス横浜 2021 を実施 里山ガーデンフェスタ（春）の来場者は過去最多となり、緑化への関心を高めることができた。</p> <p>①-2 里山ガーデンフェスタ（秋）の代替として実施したオンラインでの情報発信は、YouTube で 11 本の動画を発信し、延べ 81,640 回の閲覧があった（R4.3.31 時点）。</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を修了した 8 人が春の里山ガーデンフェスタで活動を開始した。</p> <p>③市民協働での花壇の設置・管理を通じて、よこはま緑の推進団体、推進リーダー及び市民ボランティアの皆様、国際園芸博覧会を盛り上げる機運が醸成されたほか、花壇に国際園芸博覧会の案内看板を設置することで、市民の皆様への認知向上につながった。</p>	
オ 実績	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	最終年度（令和 5 年度）
数値等	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（秋 1 回、来場者 93,700 人）※里山ガーデンフェスタ（春）は中止</p> <p>②③（新規取組のため、省略）</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春 1 回、来場者 171,128 人）※里山ガーデンフェスタ（秋）は中止</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア 8 名</p> <p>③協会の指定管理公園 3 か所で設置・管理</p>	-	-
当該年度の進捗状況	<p>やや遅れ（①コロナの影響により秋の里山ガーデンフェスタを中止としたため、来場者数目標（24 万人/年）に至らなかったが、実施した春のイベントは過去最多の来場者数となり盛況であった。②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティアは、推進リーダーから候補者 10 人を選抜したが、コロナの影響で 2 人が欠席したため年間目標（10 人）に至らなかった。③市民協働花壇は、累計 3 か所以上設置・管理の目標を初年度で達成した。）</p>			
カ 今後の課題	<p>①コロナの影響により、イベントが中止された場合も考慮し、オンラインによる更なる情報発信を進めることが必要である。</p> <p>②令和 3 年度の未受講者分を含め、ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座の受講者数を拡大することが必要である。</p> <p>③市民協働花壇の継続的な維持管理を進めていくための技術支援等が必要である。</p>		キ 課題への対応	<p>①ホームページや SNS を利用したリアルタイムな情報発信の充実に努める。</p> <p>②コロナ対策にも配慮しながら、可能な限り受講者枠を増やして講座を開催する。</p> <p>③維持管理に必要な知識、技術の習得を目的とした研修会の実施により、季節の植栽や植替えなど花壇管理の支援を行い、市民の継続的な活動をサポートする。</p>

③ 動物園事業

ア 公益的使命③	動物園の役割である「種の保存」「環境教育」「レクリエーション」「調査研究」に関する事業を多様な主体と連携・実施し、その成果を広く発信することを通して、動物園の持つ役割を来園者等に伝えることにより、動物の生息環境を含めた生物多様性保全に貢献していく。			
イ 公益的使命③の達成に向けた協約期間の主要目標	<p>①種の保存（守り続ける） 世界と手を取り合って野生動物を計画的に守っていく役割。 多様な行動を引き出す飼育環境改善（5件/年）（各園）</p> <p>②環境教育（知り伝える） 動物や生息環境のことを多くの人々へ伝え、行動につなげる役割。 出張動物園スクール等（リモート含む）の実施回数（40回/年）（3園合計）</p> <p>③レクリエーション（出会い感じる） 動物に魅せられ、ともに生きることの大切さを感じられる公園としての役割。 季節ごとに特色あるイベントや企画展の実施（4件/年）（各園）</p> <p>④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割。 市民向け研究発表等の実施（15回/年）（3園合計）</p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①種の保存（守り続ける） 動物園における動物福祉に配慮し、科学的評価にも取り組むエンリッチメント（飼育動物の生活環境を豊かにする取組）を実施するとともに、希少動物の繁殖にも取り組んだ。</p> <p>②環境教育（知り伝える） 小学校へのお出張またはオンラインで各種教育プログラムを実施するとともに、園内でのガイドやワークショップ等を実施した。</p> <p>③レクリエーション（出会い感じる） コロナ禍でも安全・安心に楽しんでもいただけるよう感染防止対策を徹底し、動物園の魅力伝えるイベントや企画展を実施した。</p> <p>④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を共有するため、大学等との共同研究を実施し、その成果は動物園での研究発表やホームページ等で広く周知した。 また、動物に関する総合学術誌に論文を投稿した。</p>	エ 取組による成果	<p>①飼育環境改善と希少動物繁殖、これらによる外部からの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢動物園のエリッチメント大賞奨励賞受賞 金沢動物園の「オオツノヒツジの生態展示とその検証」がNPO法人市民ZOOネットワークから表彰された。 ・希少動物の繁殖 よこはま動物園でマレーバク、野毛山動物園でヘサキリクガメ、金沢動物園でキリン等が繁殖した。また、金沢動物園では新たに環境省と連携してアマミトゲネズミの生息域外保全に貢献した。 ・よこはま動物園の「古賀賞」受賞内定 よこはま動物園が、ツシマヤマネコの人工授精成功について、(公社)日本動物園水族館協会の希少種繁殖国内最高賞である「古賀賞」を受賞することが内定した。 <p>②オンラインの活用による受講者の増加</p> <p>出張動物園スクールをオンライン対応することにより、通常よりも多くの学校に実施することができ、子どもたちに動物を知ってもらう機会を増やすことができた。</p> <p>③来園者の満足度向上</p> <p>よこはま動物園の入園者数制限をはじめ、感染症対策にかかる各種ガイドラインを徹底しながら、創意工夫によるイベント開催等、来園者サービスに取り組み、利用者調査アンケートの「全体的な満足度」で3園平均97.9%（とても満足、やや満足の合計）を得ることができた。</p> <p>④調査・研究結果の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツシマヤマネコの研究成果の発信 国内初の成功となったツシマヤマネコの人工授精の学術論文が、動物に関する総合学術誌「Animals」に掲載され、全世界へ成果を共有した。 ・専門家による評価 日本経済新聞の専門家が選出する「保護や研究、応援したい動物園」ランキングにおいて、先駆的な取組を行っている動物園として、よこはま動物園が1位を獲得した。 	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	<p>①（未集計のため省略）</p> <p>② 3園合計：40回</p> <p>③ よこはま動物園：2件 野毛山動物園：3件 金沢動物園：2件</p> <p>④ 3園合計：12回</p>	<p>① よこはま動物園：5件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：12件</p> <p>② 3園合計 67回 〔よこはま動物園：21回〕 〔野毛山動物園：13回〕 〔金沢動物園：33回〕</p> <p>③ 各園4件</p> <p>④ 3園合計：28回 〔よこはま動物園：12回〕 〔野毛山動物園：6回〕 〔金沢動物園：10回〕</p>	-	-

当該年度の進捗状況	順調（コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底して実施し、各目標件数を達成した。また、オンラインの活用を図ることで、動物園の持つ役割を十分に果たし、動物の生息環境を含めた生物多様性保全に貢献することができた。）		
力 今後の課題	新しい生活様式や各種ガイドラインを踏まえた動物園の管理運営に取り組んでいく必要がある。	キ 課題への対応	感染防止対策を徹底しつつ、引き続き創意工夫によるサービス提供により動物園の利用促進に努める。

(2) 財務に関する取組

ア 財務上の課題	①新型コロナウイルス感染症への対応による収入の減 ②公益への還元を図りつつ、安定的な経営を継続するために、収入の増、支出の減に注力し、収支改善を図る必要がある。			
イ 協約期間の主要目標	①公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 公園・動物園事業における公益への還元（1,000万円/年） ②①を実施したうえでの 資金収支計算書における収支均衡を維持（毎年）			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①協定で定められた額（※）以上の施設・設備及び備品の修繕等を行った。 ※横浜市との協定では、公園は50万円以上、動物園は100万円以上の修繕等を市が行うと取り決められている。 ②公園、動物園とも、コロナによる人数制限やイベント中止などの影響がある中、消毒資材の設置やソーシャルディスタンス等の感染防止対策を徹底した運営を行った。また、これらの取組をホームページ等で周知することで、安全・安心な施設であることをPRし集客に努めた。 また、新規取組として動物園でクラウドファンディングを行った。	エ 取組による成果	①次の施設・設備及び備品の修繕等に取り組み、市の財政負担及び市民サービスの向上に寄与することができた。 【公園事業】 児童遊園地の竹垣修繕、俣野別邸庭園外苑部木製ベンチ修繕、野島公園博文邸建物修繕等 【動物園事業】 よこはま動物園給水止水栓等設置工事、よこはま動物園警報システム更新、金沢動物園ホイールローダー更新、野毛山動物園爬虫類館空調機器設置工事、金沢動物園ユーラシア休憩所トイレ改修等 ②年間を通じ、多くの皆様にご来園いただくことができたほか、野毛山動物園で実施したクラウドファンディングの収入もあり、その結果、収支均衡の維持について黒字となった。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	①9,980,795円 ②当期資金収支差額 ▲2,395,017円	①111,275,929円 ②当期資金収支差額 88,299,866円	—	—
当該年度の進捗状況	順調（収入の回復及び超過勤務等の支出節減に努めた結果、2つの目標を達成することができた。）			
力 今後の課題	ウィズコロナ、アフターコロナのさらなる進展が予測されるなか、収支均衡を維持するために、より一層収入増、支出節減に向けた取組を進める必要がある。	キ 課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染拡大防止と施設利用の両立を一層すすめ、コロナ禍前の水準まで施設利用を回復させる。 ・公園の持つポテンシャルを見つめなおし、新たな収入増加策を企画、実施する。 ・公園や動物園等の来園者へのサービスレベルを落とさず、各事業の経費、本部費の節減を図る。 	

(3) 人事・組織に関する取組

ア 人事・組織に関する課題	協会設立から40年近くが経過し、管理施設・実施事業の多様化、少子高齢化、雇用に対する価値観の変化、SDGsの推進など、様々な環境の変化に対応するため、多種多様な職種・雇用形態の職員を雇用するようになってきている。現行の人材育成ビジョンはすべての職種・雇用形態に対応していないため、見直しを行う必要がある。			
イ 協約期間の主要目標	①人材育成ビジョンの改定 ②改定した人材育成ビジョンの考え方に基づく研修等の実施			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①令和4年度の改定に向け、近隣の類似団体に人材育成ビジョンの内容に関するヒアリングを行い、課題を共有した。また、市の人材育成ビジョンの内容についても調査した。 ②-	エ 取組による成果	①協会の持つ多様な職種・雇用形態に対応させた人材育成ビジョンの枠組みを整理した。また、協会として求める職員像を再構築した。 ②-	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度(令和5年度)
数値等	(参考) 令和2年度実績: ・CS・接遇研修など: 年8回	①人材育成ビジョンの考え方の整理および骨子案作成 ②-	-	-
当該年度の進捗状況	順調(令和4年度の人材育成ビジョンの改定に向け、ビジョンの枠組みを固めた。)			
カ 今後の課題	改定した人材育成ビジョンを全員で共有し、業務に取り組めるような環境づくりが必要である。	キ 課題への対応	研修等により人材育成ビジョンへの理解を深め、継続的に業務に取り組んでいく。	

2 団体を取り巻く環境等

(1) 今後想定される環境変化等

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症は「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」の動きが一層加速するものと想定される。 ・折からの円安に加えウクライナ情勢なども影響し、光熱水費を含めた急速な物価上昇など不測の事態の懸念が増している。 ・横浜市では令和3年6月に「横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例」を制定したことから、市域における脱炭素の動きが加速するものと想定される。 ・令和3年11月15日に「一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会」が設立されるなど、令和9年の国際園芸博覧会開催に向けた動きが加速している中で、緑化推進事業を担う公益財団法人として、その役割に期待が高まっている。 ・令和2年度に開始された横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs」は順調に認知度が向上し、認証を取得する団体が増加している。

(2) 上記(1)により生ずる団体経営に関する課題及び対応

<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、引き続き市と協会の両方で、市民サービスの提供と感染拡大防止を両立させる必要がある。また、安定的な経営基盤を確保するため、収益事業にも注力していく必要がある。 ・急速な物価上昇や自然災害等、不測の事態が生じた際には、各契約等の定めに基づき、市と協会の両方で協議の上、適切に対応する必要がある。 ・市域における脱炭素の動きをふまえ、電力調達において再エネ100%電力の導入を目指し取り組むほか、管理車両や動力機材の一部電動化にも取り組むなど、脱炭素の取組を進める必要がある。 ・国際園芸博覧会の機運醸成を図るため、引き続き市と協会の両方で「ガーデンネックレス横浜」の事業である「里山ガーデンフェスタ」や「よこはま花と緑の春フェア」を実施し、花と緑に関心のある市民を増やしていく必要がある。また、国際園芸博覧会に向け市民ボランティアの育成に取り組むとともに、市民と協働で国際園芸博覧会のPR花壇などを設置し、緑化推進事業により一層取り組んでいく。 ・当協会では令和3年度にY-SDGsの認証「上位=Superior(スーパーリア)」を取得したが、今後は取組を一層推進することで「最上位=Supreme(スプリム)」の取得を目指す。
